

●第 69 回 湘南科学史懇話会（2014 年 8 月 24 日（日）午後 2 時 00 分～6 時 00 分）

## 私が人生をかけた画家・山内龍雄

講師：須藤一實さん（画商）

### ●講演概要

山内龍雄（やまうち たつお）と描かれた哲学（1950～2013）。山内龍雄は 1950 年 9 月、北海道東岸の厚岸町上尾幌で生まれ、そこで育ち、そこに住み続け、画を描いた画家だ。彼の画はキャンヴァスを削って描くという独特のもので、1950 年、21 歳で初めて筆をとってから、まったくの独学で、亡くなる寸前まで描き続けた。

彼が 34 歳の時、画商の須藤一實と出会った。以降亡くなるまでの 30 年間、画家と画商の二人三脚は続いた。山内は画を描くためだけに生き、須藤は山内の制作と生活を支え続けた。

山内の油彩画は油絵具を塗り重ねていく一般的な技法とは異なり、キャンヴァスが紙の様に薄くなるまで削って、絵の具をその奥まで浸透させるという独特のものだ。一枚の画を完成させるのに数年かかることもある。その上、その技法の完成までに長い時間を要した。

30 年の間には数年間一枚も画ができない時もあった。それでも二人三脚は続き、ようやく 2005 年頃に削りによる技法の完成をみる。その直後の 2007 年、二人の念願だったヨーロッパでの山内作品展観が実現する。

ドイツでは「日本発の新しい絵画様式の誕生」と絶賛され、ヨーロッパから帰って後、2009 年の台湾での大規模な個展では、李登輝元総統から、「山内の作品は日本の精神そのものだ」と賞賛された。

「70 歳頃には何か大きな仕事が出来そうな気がする」と言っていた山内は、2013 年 12 月突然この世を去った。63 歳だった。山内が生み出した作品達に「さよなら」の言葉一つ残さないまま…。

### ●講師プロフィール

須藤一實（すどう かずみ）：山内龍雄を世に出すことに生涯を捧げてきた画商須藤一實は 1948 年 11 月、神奈川県藤沢市に生まれた。電機メーカーに就職後、2 年間のアメリカ生活を初め、ヨーロッパ、アジアへの出張を経験する。その後、オイルショックによる会社の倒産、結婚、離婚などをへて、銀座の大手画廊アートポイントに就職する。

その画廊の展覧会で釧路に出張している時に、画廊を訪れた鷹のように眼光の鋭い青年が山内龍雄だった。1984 年冬のことである。

その数ヶ月後、釧路を再訪した須藤は、はじめて山内龍雄の作品を見る機会をえた。その画は一輪車を持って立つ人間を油彩で描いた 4 号の小品だったが、人を引きつけずにはおかない静寂さと、深い精神性、高い品格と孤独を同居させていた。そして何より画の純粹さが彼をうった。6 年

かけて描かれたというその画を須藤は、画家がその時に必要だったわずかな金で買った。その時から二人の友情は始まった。

画商は画家を理解し、画家は画商を信じた。画商は画家を励まし、画家はそれに報いんがために懸命に描いた。1986年秋、山内自身が企画した初めての個展が札幌の画廊で開かれたとき、画商はその画の中で人知れず涙したという。

1988年、須藤はそれまで勤めてきた画廊を退職し、独立して山内龍雄を紹介するため「ギャラリー・タイム」を創設。以来、稀有な2人3脚は、共同作業などという軽い言葉では語れない濃密さで、4半世紀に渡って続いた。(以上、講演概要・プロフィールとも、文責は新戸雅章)

参考文献：山内龍雄・須藤一實・新戸雅章・麻生知子編著『山内龍雄―描かれた哲学』（ギャラリー・タイム、2014年4月17日）。ギャラリー・タイム（〒104-0031 東京都中央区京橋2丁目6-8 電話 03-3564-2217）

- 日時：2014年8月24日（日）午後2時～6時
- 会場：藤沢市労働会館 第3会議室、〒251-0053 藤沢市本町1-12-17  
電話 0466-26-7811 小田急線「藤沢本町駅」徒歩10分、JR「藤沢駅」北口徒歩15分 <http://www.fujisawa-rodo.jp/access.html>
- 参加費：1,000円
- 連絡先：猪野修治（湘南科学史懇話会・代表） 〒242-0023 大和市渋谷3-4-1  
TEL/FAX 046-269-8210 email [shujiino@js6.so-net.ne.jp](mailto:shujiino@js6.so-net.ne.jp)  
湘南科学史懇話会 <http://www008.upp.so-net.ne.jp/shonan/home.htm>